

## 地域の情報

# 学校保健で育む12年間の子どもの育ち ～附属三校園の学校保健計画を通じて～

加 藤 喜美江\*・猪 又 智 子\*・室 橋 由 貴\*・  
境 原 三津夫\*\*・大 庭 重 治\*

## 1 はじめに

上越教育大学には、附属学校園として、幼稚園、小学校、中学校が設置されている。平成30年度は、幼稚園に69名、小学校に411名、中学校に352名の子どもが在籍している。幼稚園から中学校までの12年間を通して附属三校園に在籍する子どもは1学年15名程度、小学校から中学校までの9年間では60名程度である。附属学校園には学区はないが、保護者の学校園に寄せる期待は大きく、非常に協力的である。

本稿では、これら附属三校園において実施している学校保健の内容を紹介し、地域の学校における学校保健の実際の様子について理解を深めることを目的とした。

## 2 保健管理

学校保健は、「学校保健計画」と「学校安全計画」に基づいて実施されている。このうち、本研究プロジェクトの健康管理

に関連して学校保健を実際に行っていく際の基本となる計画が「学校保健計画」(図1)である。

学校保健計画は、学校保健安全法第5条に基づき作成されている。学校保健計画には、保健管理、保健教育、保健組織活動が含まれている。さらに、保健管理の中には、対人管理、対物管理、健康相談の内容が含まれている。対人管理は心身の健康管理に関する内容であり、学校医や主治医との連携により実施されている。対物管理は学校環境に関する内容であり、学校薬剤師との連携に基づいている。この保健管理に関連して、食物アレルギーに関する調査票(図2)や緊急連絡カード(図3)を準備し、緊急時に備えている。保護者が記入した保健調査の内容は、健康診断や健康管理の際の基礎資料として利用している。また、保健教育には、幼稚園では保健指導、小学校では健康教育・実践体育科(保健)と保健指導、中学校では保健学習と保健指導が含まれている。

# 平成30年度 学 校 保 健 計 画

学校保健目標：自他のからだを大切にすること

上越教育大学附属小学校

月	学校保健関連行事	重点 目標	保 健 教 育		保 健 管 理		組 織 活 動
			◆健康教育◇実践体育科(保健)	保 健 指 導	対 人 管 理	対 物 管 理	
4	始業式 入学式 定期健康診断 避難訓練 教職員健康診断	からだや生活を見つめよう	<p>&lt;1年生&gt; ◆「わたしのうんち」 動物や自分のからだから出るうんちを観察したり、うんちの模型をつくったりしながら、自分のからだの状態を気にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察の仕方</li> <li>健康診断の意義と受け方</li> <li>けがや病気の救急処置</li> <li>トイレの使い方 (排便の大切さ)</li> <li>清掃の仕方</li> <li>給食後の歯みがき指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察 ・発育測定</li> <li>視力検査 ・聴力検査</li> <li>内科検診(兼水泳前検診、結核検診) ・尿検査(一次)</li> <li>食物アレルギー調査</li> <li>緊急連絡先・保健調査把握</li> <li>低体力者の保健管理</li> <li>治療勧告書発行</li> <li>保健便り発行</li> <li>健康相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検</li> <li>安全点検</li> <li>清掃分担決定、指導</li> <li>清掃用具の配布</li> <li>机、椅子の適正配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健康を語る会</li> <li>プロジェクト活動</li> </ul>
5	定期健康診断 環境整備作業 PTA総会 ボラオリンピック 教育実習		<p>&lt;5年生&gt; ◆「噛む噛むパワー」 自分の歯を見つめたり、食べ物によって違う歯ごたえや咀嚼すること意識を向けたりしながら、噛むことのからだへの影響や効果を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の意義と受け方</li> <li>感染症の予防</li> <li>体の清潔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察 ・心臓検診</li> <li>歯科検診 ・耳鼻科検診</li> <li>尿検査(二次)</li> <li>日本スポーツ振興センター加入手続</li> <li>治療勧告書発行</li> <li>保健便り発行・健康相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検</li> <li>安全点検</li> <li>校地除草・危険物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童を語る会</li> <li>PTA環境整備作業</li> <li>プロジェクト活動</li> <li>三校園養護教諭連絡会</li> </ul>
6	定期健康診断 ボラセタ全校 青学習会 三校園学校 保健委員会		<p>&lt;4年生&gt; ◆「からだで感じるさじ加減」 ったり、からだを感じる砂盤や塩のいい塩梅を見つめたりしながら、自らの健康への意識を高めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯科疾患の予防</li> <li>梅雨時の衛生</li> <li>水泳における安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察 ・眼科検診</li> <li>水泳前健康調査</li> <li>保健便り発行</li> <li>治療勧告書発行</li> <li>健康相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検</li> <li>安全点検</li> <li>プール清掃</li> <li>学校薬剤師による理科室保健室薬品検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト活動</li> <li>第1回三校園学校保健委員会</li> <li>校内救急法講習会</li> </ul>
7	終業式 夏季休業 三校園職員 アレルギー研修会		<p>&lt;5年生&gt; ◇「心の健康」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏にかりやすい病気の予防</li> <li>汗の始末 下着の清潔</li> <li>水泳における安全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察</li> <li>健康の記録配付</li> <li>保健便り発行</li> <li>健康相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検 ・安全点検</li> <li>清掃用具の点検</li> <li>学校薬剤師による学校環境衛生検査</li> <li>学期末クリーン活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三校園職員アレルギー研修会</li> <li>プロジェクト活動</li> </ul>
8	夏季休業					<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検・水質検査</li> </ul>	
9	始業式 環境整備作業 教育実習 避難訓練		<p>&lt;3年生&gt; ◆「あらってみる」 手が汚れる行動を振り返ったり、手についた汚れをきれいに落とす仕方や目的によって手の洗い方に違いがあることを確かめたりしながら、手を洗うことの見方をひろげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活のリズム</li> <li>バランスのとれた食事</li> <li>夏の疲れと休業</li> <li>けがの防止と手当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察</li> <li>発育測定</li> <li>保健便り発行</li> <li>健康相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検</li> <li>安全点検</li> <li>清掃指導(全校)</li> <li>ダニアレルギー検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童を語る会</li> <li>プロジェクト活動</li> <li>PTA環境整備作業</li> </ul>

図1 学校保健計画(抜粋)

\* 上越教育大学

\*\* 新潟県立看護大学

平成31年度 入学(園) 上越教育大学附属小学校

学校(園)における食物アレルギーに関する調査票(保護者記入用)

氏名 \_\_\_\_\_

附属学校園では、食物アレルギーをもつお子さんが、医師の指示に基づき、学校園生活を安心して過ごすことができるよう給食除去食・代替食の対応や教育活動への配慮等の対応を実施しています。つきましては、毎年年度末に定期的に内容確認をお願いします。

確認時期	入学前	1年・年度末	2年・年度末	3年・年度末	4年・年度末	5年・年度末
食物アレルギー 有無 <small>どちらかに○</small>	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無

\*「無」の場合—調査はこれで終了です。ありがとうございました。  
\*「有」の場合—1～11までお答えください。

1 現在除去している食品はありますか。  
☐いいえ ☐はい 食品名: \_\_\_\_\_

2 1の食品を食べた時の症状と、対応についての主治医の指示を記入してください。

食品名	症 状	対 応(主治医の指示等)

3 学校給食での対応を必要としますか。  
☐いいえ ☐はい→医師による「学校生活管理指導表」または診断書等をご提出ください。

4 過去に除去食を行っていて、現在は食べられるようになった食品はありますか。  
☐いいえ ☐はい 食品名: \_\_\_\_\_

5 運動したあとにアレルギー症状を起こしたことはありますか。  
☐いいえ ☐はい → ☐食事との関連あり ☐食事との関連なし

裏面もご記入ください

図2 食物アレルギーに関する調査票(抜粋)

これらのように、学校の日課表や年間の行事などとの関連を図りながら学校保健を進めていくための1年間を見通した内容が記載されている。これらの計画の策定に参画し、保健室経営を軸にした内容の展開は、養護教諭の職務となっており、養護教諭は、学級担任を始めとする教職員、学校医、保護者、関係機関などとの連携を図りながら、学校保健計画を組織的に遂行している。

### 3 健康相談

子どもたちの健康課題は多様化、複雑化しており、その解決に向けて健康相談が重要な役割を果たしている。養護教諭は子どもたちの心身の健康状態を発見しやすい立場にあるため、健康相談の必要性の有無、学校体制の整備、関係機関との連携等のコーディネーター的役割が求められている。

発達段階によって、相談の内容や対象は異なっている。幼稚園では、幼児の身体の不調から見えてくるストレスを感じた際の気持ちの寄り添いや、保護者との相談活動が中心となっている。そこには、発育・発達、既往疾患に関する相談や子育て支援、母親支援なども含まれている。小学校や中学校では、登校しぶり、保健室登校の児童、生徒、保護者への支援も加わってくる。また、特別支援教育コーディネーターとの連携により、特別な支援を必要とする児童への支援も行っている。さらに中学校では、在職している臨床心理士と連携した対応をしている。同時に、日常生活において児童・生徒と接している中で、成長に伴う心身の不安や悩み、友人との人間関係による相

**緊急連絡カード**

このカードは、お子さんの病気がけが等で家庭連絡をとりたい場合に参考といたしますので、ご記入をお願いします。(6年間使用します。)

①変更のある場合は、古いものを緑で消して新しいものをご記入ください。  
②緊急連絡先カード・中面からの保健調査カードに記入後、保護者確認印を押して、学校担任に提出してください。

上越教育大学附属小学校

フリガナ	性別	学年	組	番	保護者氏名	学年	組	番	保護者氏名
児童名	男・女	1			印	4			印
		2			印	5			印
生年月日 平成 年 月 日生		3			印	6			印

お子さんの病気がけがで連絡をとりたい時に、速急に連絡のとれる方について、記入してください。

保護者名		自宅住所	
		電話番号	
緊急連絡先	連絡者名	続柄	連絡先(勤務先など)
1			
2			
3			

病気がけがで受診が必要時、希望する医療機関(旧高田市内に限る)がある場合は記入してください。

【内科】	【歯科】	【整形外科・外科】
医院 _____	医院 _____	医院 _____
受診したことが(有・無)	受診したことが(有・無)	受診したことが(有・無)
【耳鼻科】	【眼科】	
医院 _____	医院 _____	
受診したことが(有・無)	受診したことが(有・無)	

指定する医療機関がない場合や、上記の医療機関が休診等の場合は、学校に一任していただけますか。  
(○印をつけてください)

一任する ・ 家庭の希望を確認してほしい

※一列をあらそう場合は、救急車の指定する適切な医療機関へ行きます。

図3 緊急連絡カード(抜粋)

談や、心因的要因による体調不良者への対応と支援も行っている。

健康相談を進めていく上で特に大切にしていることは、校園内での連携、保護者との連携、関係機関との連携である。養護教諭ひとりでは解決できないことも、関係職員と情報交換、情報共有をしていしながら、子どもの実態を把握したり、支援方法を検討したりしている。特に、学校園生活において保健管理が必要な子どもに対しては、全職員で共通理解を図りながら対応している。また、幼児など自らの言葉で伝えることが難しい場合や、健康課題の内容が重大である場合は、保護者との連携は欠かせないことから、この場合の連携は特に重要な意味を持つ。実際に連携している関係機関には、上越市子ども発達支援センター、上越市すこやかなくらし包括支援センター、児童相談所、本学特別支援教育実践研究センター、本学心理教育相談室、地域の医療機関等がある。

### 4 保健教育

学校保健計画には、各学年の子どもが、いつ、どのような内容で保健教育を受けるかが明記されており、それに沿って保健教育を実施している。その保健教育は、保健学習だけではなく生活科や社会科、総合的な学習の時間といった各教科の時間、そして学級活動や学校行事等の特別活動、それから、教科領域には含まれないが、必要に応じて行われる個別の保健指導等、学校の教育活動全体を通じて行われている。例えば、幼稚園では、保育の中での保健指導として歯について学んだり、中学校

の保健学習では、心身の機能の発達や心の健康、けがの防止、病気の予防などについて学んだりしている。小学校では、保健学習は実践体育科の授業の中で行い、健康教育は学校の教育活動全体を通じて行っている。例えば、5年生の健康教育「噛む噛むパワー」では、かたやきせんべいやガム、握力測定等を介して自分のからだを見つめ、自分でしか捉えることのできない噛む力を感じ取り、噛むことの見方をひろげていった。

## 5 保健組織活動

附属三校園の保健組織活動のひとつに、「附属三校園学校保健委員会」がある。これは、三校園でローテーションしながら、当面する各発達段階における健康課題について、附属幼小中三校園の関係機関、保護者、職員間で課題を共有し、解決に向けて意識を高めることを目的に平成26年度から開催している。

平成26年度は、「子どもの健康とメディアとのつきあい方」をテーマに、幼・小・中保護者にアンケート調査を実施し、その結果を基に講師を招いて講演会を開催した。平成27年度は、「食事で作られるわたしの体」をテーマに、中1ギャップ解消を期待し、小学校6年生と中学校2年生の異学年交流によるグループワークを行った。また、並行して保護者同士によるグループワークも設定した。その後、本学教授による講演会を開催した。平成28年度は、「からだコミュニケーション」をテーマにワークショップと講演会を開催した。ワークショップでは、中学2年生と小学1年生、幼稚園児がペアになって、本学教授から体を使った触れ合い遊びの指導を受け、その後保護者向けに講演会を開催した。平成29年度は、外部講師を招きワークショップと講演会を開催した。中学2年生、小学4年生、幼稚園の年中児と年長児がグループになって健康クイズオリエンテーリングを行い、その後保護者向けに睡眠に関する講演会を開催した。平成30年度は保護者を対象とした活動のみとし、三校園の代表者による「子育てにおいて大事にしていること」に関するリレートークと外部講師による講演会を開催した。

また、その他の組織活動のひとつとして、外部講師による食物アレルギーに関する三校園職員研修会を開催している。その際、エピペン<sup>®</sup>の実技研修も実施している。

## 6 おわりに

附属学校園の小学校と中学校には特別支援教育コーディネーターが配置され、また中学校には臨床心理士が在職している。これらの他職種と養護教諭が連携することで、より子どもの健康に関する支援の幅が広がっている。

また、附属三校園は、上越教育大学の管轄下にあるため、幼稚園から小学校、小学校から中学校への子どもの情報伝達をスムーズに行うことができる。今回紹介したような附属三校園学校保健委員会の開催なども可能であり、子どもの12年間の育ちを見通した連携が図りやすい。

さらに学区がないことから、幼稚園や小学校では送迎の機会を捉えて保護者と情報交換することができる。それにより、子どもの育ちを支えるために日常的に保護者と連携を図っていくことが可能な状況にある。

このような附属学校園の独自性を十分考慮した上で、地域に

おけるモデル校としての役割を、学校保健を推進する上でも果たしていかなければならない。

## 追記

本研究は、平成30年度上越教育大学研究プロジェクト「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための『地域連携コモンズ』形成の試み」（研究代表者：大庭重治）の補助を受けて実施した。

また、本稿の内容は、平成30年12月12日、上越教育大学特別支援教育実践研究センターで開催された「第3回自主セミナー」において報告した内容に加筆修正したものである。